

琉球大学学術リポジトリ

那覇市公会堂における地域主義建築表現に関する研究：設計競技の企画運営及びその設計内容について

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学 公開日: 2016-04-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 前田, 慎, Maeda, Makoto メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/33625

論 文 要 旨

論 文 題 目

那覇市公会堂における地域主義建築表現に関する研究

～設計競技の企画運営及びその設計内容について～

那覇市公会堂は、沖縄が日本に返還される1972年直前に実施された設計競技を経て、1970年に竣工した。この時期の沖縄は、戦後復興で米軍によって導入された鉄筋コンクリート造(RC造)などの近代建築技術が定着した時期である。また、アメリカから日本へ施政権が変わる本土復帰を前に、沖縄文化全般に郷土のアイデンティティを強く意識する機運が高まった時期でもある。この時期建築業界では、RC造等の近代建築技術と沖縄の伝統的建築様式や風土性とを融合した空間表現を模索した建築作品が地元建築家により設計されるようになった。こうした時代背景の下で完成した那覇市公会堂は、沖縄の地域主義建築表現が成された重要な作品の一つとして位置付けられているモダニズム建築であり、本研究はその公会堂に焦点を当て、戦後沖縄の地域主義建築活動に関する研究をまとめた物で、大きく分けて4つの分類で論文を構成している。

- 1) 那覇市公会堂設計競技の企画運営
- 2) 那覇市公会堂の設計体制
- 3) 那覇市公会堂の建築表現における風土性
- 4) 那覇市公会堂以降の建築表現における風土性

1) 那覇市公会堂設計競技の企画運営は、設計者選定のプロセスに注目している。建築設計競技において、地域主義建築表現実現の為の企画がどのように立案され、どのように運営されていたかを調査し、地域主義建築活動との関わり解明を目的としている。2) 那覇市公会堂の設計体制では、建築設計を担った設計事務所について調査し、その担当建築家の活動実態についても詳細に調査を行っている。直接携わった建築家を調査分析する事は那覇市公会堂の設計意図解明に繋がり、さらには彼らを通じて当時の建築家を取り巻く世相や思想・思考を考察し、沖縄における地域主義建築活動の一端の解明を目的としている。3) 那覇市公会堂の建築表現における風土性では、公会堂設計における具体的な風土性表現の建築手法を分析している。2)も踏まえ、具体的にどのような設計をもって地域主義建築表現が成されたか解明する事を目的としている。4) 那覇市公会堂以降の建築表現における風土性では、那覇市公会堂の設計に携わった建築家の一人である金城信吉の建築に焦点を当て、信吉が独立後設計した住宅建築及び公共建築の設計を調査し分析している。沖縄本土復帰後、那覇市公会堂で成された地域主義建築表現がどのように発展し展開したかを考察する事を目的としている。

氏 名 前田 慎